

平成31年度学校自己評価システムシート (県立蕨高等学校)

目指す学校像	「生徒の進路希望を実現する文武両道の進学校」 ～グローバルな視点を持ち次世代のリーダーとして活躍できる人を育てる～
--------	--

重点目標	1 生徒の進路希望の実現に向け、生徒に高い志を持たせ、全教職員が授業改善に取り組む。 2 社会のリーダーとして活躍できるように、自主・自律の精神を持ち合わせた生徒を育成する。 3 開かれた学校づくりを推進するとともに、蕨高校の魅力が伝わるように情報発信する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度卒業生の国公立大学現役合格者は、平成29年度卒業生と比較し約3割減少したが、難関私立大学合格件数は約3割増加した。 新しい大学入学共通テストに向けた授業改善を継続する必要がある。 	新しい大学入学共通テストに向けた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善の組織的な実施 ②生徒の書く力・考える力・伝える力を向上させる授業改善の組織的な実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習意識(アンケート等)向上の視点から教科等で良い取組を共有できたか ②学習成果(考查結果・模試分析等)の視点から教科等で改善点を共有できたか 	新学習指導要領を踏まえた授業改善を行った。 ①アクティブラーニング、授業アンケート等を活用し授業改善に取り組み、生徒の学習意識向上につながる取組の共有を全教科で行った。 ②授業で小論文、レポート作成等を取り入れるとともに、考查結果、模試分析等から改善点を全教科で共有し授業改善に取り組んだ。	A	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の主体的で深い学びを意識した授業改善を進めるとともにそれらを確認する方法を今後検討する必要がある。 ②生徒の書く力・考える力・伝える力を向上させる授業改善を継続する必要がある。
		生徒の進路希望を実現する進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ①各種進学補講体制の拡充 ②先進校視察及び外部研修会への参加の奨励 	<ul style="list-style-type: none"> ①各種進学補講の講座数及び参加者数 ②先進校視察及び外部研修会への教員の参加者数 	進路希望を実現する進路指導が充実している。 ①通常時の進学補講は前期後期28講座。夏期進学補講は70講座で参加者は2,724名だった。 ②先進校視察は7名、外部研修会への教員の参加者数は76名。いずれも前年より増加した。	A	<ul style="list-style-type: none"> ①進学補講は各教科と連携し長期休業中だけでなく通常時も充実させる。 ②先進校視察及び外部研修会で得た成果を共有し教科指導・進路指導に活かす。
2	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度は多くの部活動が全国大会、関東大会、県大会で活躍した。 蕨高校部活動に係る活動方針に基づき効果的効率的な部活動を実施する必要がある。 定期考査前・定期考査中だけでなく平常時にも授業以外の学習時間を確保し、高いレベルの文武両道を目指す必要がある。 	高いレベルでの文武両道の実現	<ul style="list-style-type: none"> ①朝時間や隙間時間の有効活用の奨励 ②効果的効率的な部活動の奨励 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業以外の学習時間の増加 ②文武両道が実現できているという回答の増加 	高いレベルでの文武両道の実現のため支援を行う ①平日の学習時間は横ばい傾向である。授業以外の学習時間を増加させる方法の一つとして朝時間や隙間時間の有効活用を奨励した。 ②文武両道が実現できている生徒は前年同様約3割である(生徒実態調査より)。	B	<ul style="list-style-type: none"> ①自学自習の習慣を入学時に指導するとともに、学習時間以外を含めた時間管理能力を高める指導が必要である。 ②効果的効率的な部活動を奨励する。
		規範意識の高い生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ①全職員による登校指導と交通マナー向上の指導 ②全学年による遅刻指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①交通事故件数の減少 ②遅刻件数の減少 	登校指導と遅刻指導により遅刻件数が改善した。 ①スケアード・ストレートを実施。交通事故件数は前年比同の6件であった。 ②遅刻件数(4月から12月)は前年比81件減の826件であった。	A	<ul style="list-style-type: none"> ①交通事故防止に向け交通安全指導を継続する。 ②今後も遅刻件数減少に向け継続的な指導を行う。
		国際社会に積極的に貢献しようとする生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ①海外短期派遣事業の周知、指導及び報告会の実施 ②蕨市の国際ボランティア等の国際交流活動の実施 ③外国語科通信(全校生徒配付)を活用した情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ①海外短期派遣事業への参加者数と報告会の実施 ②国際ボランティア等の国際交流活動への参加者数 ③外国語科通信の発行回数 	国際社会に目を向け海外に学ぶ姿勢を育てた。 ①海外短期派遣事業参加者数は22名。来校者に向けて文化祭で企画展示。併せて生徒に向けて報告会を実施。 ②国際青少年キャンプinわらびに生徒40名(含む茶道部25名)が参加。 ③外国語科通信を7回発行。全校生徒に配付するとともに学校ホームページにも掲載。	A	<ul style="list-style-type: none"> ①来年度の海外短期派遣事業の充実に向けて今年度の課題を改善していく必要がある。 ②引き続き蕨市と連携し生徒へ積極的な参加を促す。 ③定期的な発行と情報発信を継続する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会、学校公開、ミニ学校説明会、部活体験見学会を実施した。 学校ホームページは積極的に情報更新し、アクセス数は前年度を大幅に上回り約16万件だった。 中学生とその保護者に、あるいは在校生とその保護者に、蕨高校の魅力がより伝わるような広報活動を積極的に推進する必要がある。 	本校教育活動の積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ①学校説明会等の効果的効率的な運営及び12月以降のミニ学校説明会を含めた生徒募集活動の検討 ②中学生・中学生保護者・在校生保護者を意識した教育活動の積極的な発信による学校ホームページの更新 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校説明会等の満足度70%以上 ②学校ホームページへのアクセス数16万5千件以上 	学校説明会や学校ホームページで情報発信した。 ①学校説明会3回、ミニ学校説明会1回を実施。参加者数は約3,860名で満足度は90%以上。また学校公開は4回実施。参加者数は697名で満足度は92.3%。 ②学校ホームページアクセス数(4月から1月)は前年比14万5千件増の約27万件だった。	A	<ul style="list-style-type: none"> ①各学校説明会の申込状況等を踏まえ来年度の学校説明会の実施時期、回数、実施内容等を検討する。 ②学校ホームページ更新を継続できる体制づくりを引き続き検討する。

学校関係者評価	実施日令和2年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善は、教員同士で授業を見学した上で研修会・研究協議を実施し検討した内容を記録するとよい。 先進校視察や研修会参加は、視察・研修の成果は校内で全教員に共有できるように記録した方がよい。 授業改善には教員同士で授業見学をするとい。よい授業を見せることで改善が期待できる。特に若い教員を採用2、3年でいかに伸ばすかが重要。 先進校視察や各種研修会に参加した場合は簡単な報告書をまとめ全教職員にフィードバックすることが大切。
	<ul style="list-style-type: none"> 文武両道は進学校の生徒の悩みであろう。そのため時間管理能力の育成は重要である。1年生の最初により取組を示すことができれば効果的である。 遅刻件数の改善はよいと思う。 登校指導は効果があると思う。教員がいるのといないのでは全く違う。 海外短期派遣事業やグローバル人材育成プログラムは学校ホームページで見ることができた。 外国語科通信は学校ホームページに掲載されているのでぜひ読みたい。 国際青少年キャンプinわらびに生徒40名参加は素晴らしい。国際交流事業に参加した生徒が他の生徒に報告する機会を設けているのは他の生徒への影響を考えるとたいへん重要である。
	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会や学校公開に対する満足度が高いのは素晴らしい。 学校ホームページの情報が更新されている。学校の様子が分かる。 学校説明会の際、来校者を誘導するなど生徒会が協力することできる。 部活動見学の際、説明や質問に答えるような対応をしてはどうか。受験生も保護者もそういう情報は参考になる。